

6 月度研究会開催!!

事務局 吉田

イベント目白押し of 6 月を締めくくるかのように、26日 ACE 北海道今年初めてのマルチメディアキャラバンが松山管内大成町で開催されました。出張メンバーは、武田支部長、荒島先生、尾崎先生、由水先生、遅れて半澤先生、新メンバー・パステムセゾンの村上さんと荒さんのお二人、青柳事務局長、吉田といった顔ぶれ。

今回はこねっと・プランその他で八面六臂の活躍ぶりを見せている大成高校の入澤先生のところにお邪魔いたしました。従来の研究会に加えて、地元の方々対象のインターネット、ホームページ講座なども盛り込んで、新しい趣向で取り組んでみました。

支部長挨拶

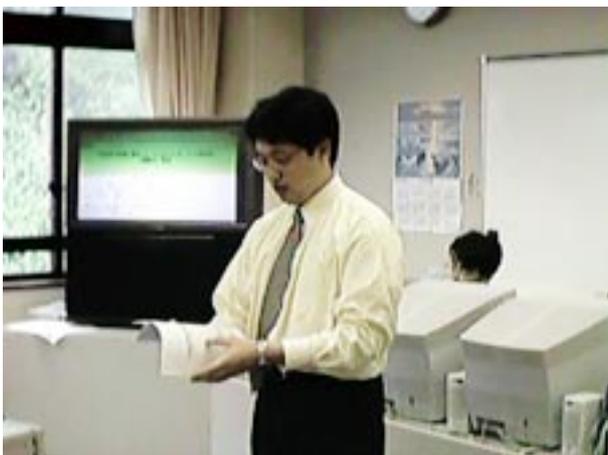
研究会、ということだけでなく一緒にいろいろな勉強をする機会をもてうれしく思っています。これからはパソコンでインターネットにわざわざ接続する、というだけでなく、暮らしの中にとけ込んだ形でいろいろな情報発信が行われると考えている。その中で自分なりにいかに対応をしていくか、大切な部分で、常にそれを考えていきたい。

宮川校長挨拶

現在の教育ではコンピュータやインターネットといった部分がかんどん入り込んでいっている。自分のアイデアを生かしたり発掘したりするための道具となっていけばいいと思っている。僻地にある中で、よその地域にはないものを生徒たちに植え付けることが必要だと考えていて、ここから北海道の情報社会の礎が生まれればうれしいと思っている。有意義な会にしてほしい。

大成高校のコンピュータとネットワーク利用の環境（入澤）

今のコンピュータになって1カ月だが、前の環境では結構インターネットを活用するにはかなり厳しかったが工夫をしてホームページなどを作っていた。また、神奈川の大師高等学校とテレビ会議やメールなどを使って交流を行っていた。インターネットに一台しかつながらない環境の頃はメールのやりとりなども大変



いやいや、今回は入澤先生に大変お世話になりました

だったが、教育委員会の理解を得て、マシンの更新が実現した。新しいシステムはPCゼミのような仕組みでたとえば一台しかつ



一月前に更新になったばかり。ネットワークはオール 100Base であるが、フェニックスでもクライアントで全体が見渡せるようになるし、メールサーバもフリーのものを見つけて生徒にアカウントを出している。技術的、制度的にまだ検討事項が多く、規制をかけていく部分も必要だが、可能な限り生徒の自由にさせたいとは考えていて、生徒にも理解を得た上で使ってもらっている。これから取り組んでいきたいのは、メーリングリストを使った大規模な学校間交流とか、町民講座の開催など、社会教育的な部分だ。小学生対象にデジタル塗り絵のような試みをやったりもしている。

これから勉強をしていかなければいけないのは、現在教えているのはPCをさわった事のない生徒だが、これからは小学校、中学校で多少なりともふれたことのある生徒が高校に上がってきたときにどのような事を教えるか、あるいはどのような教え方をしていけばいいのかという、次のフェーズだ。

校務処理にも実際に使っていて、先生方にも活用してほしいし PC やインターネットの事を勉強してほしいと思っている。今までは先端を走っていたつもりでやっていたが、道の方でもインターネット接続などの環境づくりをここ2年ばかりでやってくと聞いているので、道立校に追い越されないよう、新たな勉強が必要だ。

アカデミックウェアという160万もする画像転送のソフトウェアを使っていて、これがPCゼミなどと同じ役割をソフトウェア的に果たす。プログラムランチャやキーボードロックといった機能もある。

クライアントマシンは100Baseでつながっているので動画の転送などもスムーズだ。NTで動かしているがドメイン管理しかしていないのが現状だ。プリンタもネットワークプリンタで十分な運用ができています。

教室は開放してはいないが、ワープロ検定などの練習もあるので、先生がつけば使わせる。授業は情報処理という形で2年からキータッチなどをぼちぼちはじめて、表計算、3年になってホームページづくりなどに進む。

小学校は3校のうち一校がインターネット接続をしている。ISDNは全部に引かれている。OCNエコノミーなどが入ってこれる環境になってくれば、高校を起点として町内の情報化に役立つ

ていくと考えているが、なかなか難しい。プロバイダの環境一つとってもなかなか満足はいかないのが現状だ。

「学校を中心とした地域のネットワーク化、活性化について」(武田)

(今回別原稿にさせていただきました)

北海道の情報と教育の取り組みについて(荒島)

道立高校などがつながっていく際、これからの仕組みにあわせて柔軟な予算措置の可能性が残されており、学校のインターネット接続もだいぶ変わっていくのではないかと期待している。学校の接続状況だが、100校プロジェクトとかこねっとぶらんとかいると部分的な取り組みがあるが、大阪教育大の「インターネットと教育」<http://www.osakakyoiku.ac.jp/>というページがよくまとまっているので紹介したい。札幌の教育委員会が通達を出し、学校の名前を冠した私的なホームページは認めないということになった。

インターネットを使うということだけが情報教育ではないが、コンピュータを使う以上スタンドアロンよりはネットワークされていた方が有効なことははっきりしている。そういった中で規制の動きがあると横のつながりが作りにくい、連絡を取り合うというという意味も込めて情報と教育フォーラム「オンコの木」をつくった。カレンダーやチャットルームを設けたり、今まで活用してきたメーリングリストをこの場から入ってゆきやすくした。

また、こどもミュージアムという仕組みを作り、生徒が自由にインターネットで様々な表現を実行する場づくりを目指していきたいと考えている。

ネットワークの広がりはどんどん大きくなっていくが、学校はまだ遅れている。環境の変化にあわせて形を表現の場を提供する必要があるのではないかと。

インターネットとホームページ作成講座

さて、休憩をはさんで、一般の参加者を対象に、インターネットとホームページ作成の簡単な講座を行いました。ここでは、最近我々が得意としている「一太郎8」をつかって、ワープロ感覚で作るホームページを体感してもらいました。

そしていつもの懇親会

残念ながら大成町の宿がとれず、入澤先生を拉致して隣の隣、瀬棚町の民宿でいつものように大酒を呑みました。道南定番のイカ刺しとウニがしびれる美味さで、4時間かけてきた甲斐もあったというものです。未明に怪しい釣りざおを持って出かけた人々がいたらしいですが、吉田途中で意識を失ってためわりまへん。

入澤先生の御尽力で地元参加者より札幌の人間がおおい、という悲しいマルチメディアキャラバンの構図を避けることができました。ここに改めて感謝の意を表します。ありがとうございました。また札幌にもきてね。

地域の情報化と活性化について

北星学園女子短期大学
武田 巨明

1. はじめに

近年、社会の高度情報通信化の進展には、目をみはるものがあります。遠く離れたところからでもインターネットなどの新しいメディアを活用して医療や行政のサービス提供や、企業や銀行で

の電子決済など、これまで遠い未来の話とされていたことが、次々と現実のものになっています。

しかし、これらサービスなどは、どちらかというと技術や情報発信者側を中心に組み立てられており、そこに流れる情報を最終的に活用する生活者の側からの検証や評価については、十分に行われているとはいえません。

高度情報通信化に対応し、市民ひとりひとりが真に豊かな生活に享受していくためには、市民が日常の暮らしの中で、新しいメディアについて学習し、地域に密着した情報を受発信し、活発なコミュニケーションの場を構築していく必要があります。

2. 地域情報 WEB サイトについて

ここで、インターシティ OROPPAS に掲載されている地域情報のホームページをみてみましょう。まず、これらのページの作成者別に整理してみると、

(<http://www.orooppas.or.jp/OROPPAS/town/index.html>)

(1) 行政によるもの(札幌市白石区、手稲区でいねっていいね、札幌市南区)

(2) 協議会・市民グループによるもの(厚別便利帳、手稲区星置)

(3) 市民有志・個人によるもの(清田区民のたまり場)

の3種類に分類できます。

(1)は、区役所などで予算化して作成したもので、企業に発注して作成して更新時期は年度ごとということもあるようです。

(2)は、地域の市民や大学、行政が連携して協議会などを設立して作成したものでボランティア組織によるもので、地域住民のミーティングや講習会なども実施していることが多いです。地域にあるいろいろな施設や町内会などとの連携はまだあまりとりきれていないという限界もあるようです。(3)は、小人数の市民有志が取り組んだもので、情報の掲載量が比較的少なく更新の負担も大きくなります。

また、ページの内容により整理すると、

(1) 自治体情報の掲載型。一方的情報提示型(白石区、手稲区でいねっていいね)

(2) 地域の買い物、交通などの情報提示型(厚別便利帳、the KOTONI)

(3) 地域住民交流型(WEBいろいろ掲示板、フリーボード、メーリングリスト)(清田区民のたまり場)

の3種類に分類することができます。

(1)は、行政が作成したものに多く、地域住民の生活をベースに考えた情報ではなく、となりの区の情報は一切掲載されていないという限界があります。(2)は、木目細かい情報ではありますが、便利帳的データベースといったものです。(3)は、ページにはいつてきた人同士が情報交換したり、コミュニケーションしたりする環境を提供しています。

3. 地域情報 Web サイトのこれから

上に概観したように、作成者、内容ともにそれぞれの長所短所があるようです。地域住民にとって有用な生活情報の Web サイトを構築していくには、組織、内容について次のような点に留意することが必要と思われます。

(組織)行政と市民グループの連携により相互に補いながら、生活者にとって有益な生活情報とは何かを検討していくことが肝要と思われます。またその中間的な地域の施設や団体の参加が重要です。行政、施設、町内会、住民グループ、個人などのあらゆる層から情報が発信されることがもっとも大切であり、それら情報を活用する住民側から見てわかりやすく整理する調整機関が必要となります。

(内容)基盤となる地域情報のデータベースとしての内容に加え

て、施設、町内会などあらゆる層からの呼びかけや案内などの情報が加えられることが大切です。また、交流する場としての意味も今後ますます大きくなると思われます。掲示板やチャットルーム、カレンダー、メーリングリストなどの整備は必須になると思われれます。

4、アクセスの問題

地域情報の提供や交流の場が整備されてもなお、その地域住民の何パーセントがインターネットにアクセスできるのかということが問題になります。パブリックスペースでのアクセスポイントの整備やパソコンを学ばなくてもネットワークに簡単にアクセスできる仕掛けの開発が必要となります。近年開発されたWebTVやLivwTex(手稲区役所・パスポートセンターで実験運用中)、データ放送(北海道テレビで実験放送中)などを自宅のテレビで、チャンネルを選択するだけで見られるような仕組みが大切になります。

5、「札幌市西岡地域情報化推進協議会」について

表記の協議会を7月から設立することになりました。これは、行政、大学、地域施設、町内会、PTAなどが共に連携して地域情報化を推進し、生活者の視点から情報化社会を見直すことを目指しています。

(主な活動内容)

- (1) 地域情報化連絡会の実施
- (2) 西岡インターネットサーバーの開設・運用
- (3) 西岡ホームページ「にしおか」の開設・運営
- (4) 地域生活情報の情報発信システムの研究・開発
- (5) 地域メーリングリストの構築、運営による情報交換の活性化
- (6) 地域向け情報講習会、研究会の実施
- (7) 地域向け情報講演会の実施

6、市民育成の問題

インターネットなどを活用した地域情報化の取組みの多くは、一方的情報提示が多く、また、電子商取引などの実験も市民不在のまま行われることが多いようです。市民＝消費者育成を視野にいれないでサイバースペースでの商売をもくろむのは、お客のいないところで商売を始めようというのと変わりはありません。

また、真の意味で健全な情報化社会を構築するには、市民参加以外に道はありません。市民自身が積極的に新しいメディアと係わり、それを活用し評価し、育てていくことが最も重要なことなのです。

「こどもミュージアム」オープン！

荒島

<http://onko.ncf.or.jp/museum/>

6月23日教育課程審議会の審議のまとめが発表されました。その「基準の改善の方針」の中で「子どもたちは、幼児期から思春期を経て、自我を形成し、自らの個性を伸長・開花させながら発達を遂げていく。教育はこうした子どもたちの発達を扶ける営みである。もちろんその営みは学校のみが担うものではなく、学校、家庭、地域社会が連携を図り、それぞれがその教育機能を十分に発揮してはじめて子どもたちのよりよい発達が促されるものである」と述べています。また、「自ら学び、自ら考える力を育成すること」の項では「自分の考えや思いを的確に表現する力、問題を発見し解決する力を育成し、創造性の基礎を培い、社会の変化に主体的に対応し、行動できるようにすることを重視した教育活動を積極的に展開していく必要がある」としています。このように、

今後ますます子どもたちの『表現力・創造性を育成する場・機会』が求められてきます。2003年には全国の小中高校がインターネットを利用できる環境になるとも言われています。

ACE北海道支部では、今までも「バーチャル雪まつり」や「マルチメディアバトル」など、子どもたちが自ら表現する場を作ってきました。今回は、「オンコの木WWWサーバー」を利用し、子どもたちの表現の場を提供していきたいと考えます。子どもたちの表現する作品は絵画や音楽、作文や新聞、理科や社会科の自由研究など多岐に渡ります。しかし、国内のホームページを見ても理科なら理科と特化されたものが多く、総合的に作品を掲載しているホームページは数少ない状況です。

今回オープンした「こどもミュージアム」は様々な分野の応募を待っています。また、形式もホームページに掲載できるファイル形式であれば何でもOKです。子ども作った粘土細工をデジタルカメラで写してそれをGIF-fileにしたものでもよいです。

「こどもミュージアム」への掲載は基本的にはリンクを考えてい



続々と作品がくることを期待して。

ます。しかし、特に札幌市のようにリンクさせるためのホームページを作りたくても「学校の名を冠した私的なホームページ」には強烈な指導が入る地域もあります。ここでは、学校ホームページのコンテンツではないです。子どもたち個々の作品を掲載する場です。応募責任者は教師でも父母の方でも、もちろん子ども自身でも構いません。

ただし、子どもたちのプライバシーや知的所有権などを守るためにいくつかの約束事も決めました。ホームページを持っていない方でもFDなどで作品を送っていただければACE北海道事務局が代わってアップします。

まずは「こどもミュージアム」のホームページをご覧ください。たくさん作品のご応募をお待ちしています。

札教研東地区事業に協力

青柳

6月23日、札幌市ネットワークプラザにて、札幌市教育研究協議会(札教研)東地区事業「ホームページ作成講座」を、ACE北海道とNCF・情報と教育フォーラムの主催で開催しました。担当講師は札幌発寒中・荒島先生、札幌平岡小・大橋先生、事務局・吉田編集長と青柳のACE代表4名です。

昨秋、アトリエアイリス・水越先生と北星短大・武田先生が担当して、同じ札教研東地区事業「インターネット体験講習会」を開きましたが、今回はその第2回目で、もう一歩進んでホームページを作ってみよう、という内容で行いました。

札教研は札幌市の小中学校の先生が全員所属している研究会で、事業のある日は午後授業を休みにして開催されるのですが、出席率はさほど良くないとお話をうかがっていましたが、事前申し込みは40数名とはいえ、当日どの程度集まるのか？とっていました。しかしこの日はほぼ全員が出席し、ネットワークプラザは熱気に包まれました。

講習では教育関係のホームページなどを一通り紹介し、htmlファイルの種明かしを見せた後、いよいよホームページ作成実習です。今回はとにかく学校にあるものを活用してやってみようということで、学校導入率ナンバーワンワープロ「一太郎」のホームページ作成機能を使って、自己紹介ページを作ってもらいました。やはり「一太郎」は取っ付きやすいのか、「いつもワープロで文書を作成するのと同じように、自己紹介文を書いて下さい」との指示にすぐさま取り掛かり、予定よりもずっと早いペースで、イラストなども取り込んだ自己紹介文を作成してしまいました。

さて、そうやって作った文書を一発でhtml変換し、ブラウザに表示してもらおうと、「おー、こんなに簡単なのね」といった雰囲気。こうなれば、次々とステップが踏めます。今度はデジカメで一人ずつ顔写真を撮ってページに張り付けたり、背景画像を工夫してみたり、更に余裕のある先生はおすすめのホームページにリンクを張ってみたりと、予想していたよりもずっと高度なところまで進むことができました。

また、この日同じ時間帯には札幌北野台中でも札幌教研清田区地区事業でインターネット体験講習会が行われ、北野台中・尾崎先生、小樽の塙先生、凸版印刷の榎谷さんが講師で講習を進めていましたが、NTTのフェニックスを使って両会場を結んだテレビ会議のデモもやってみました。多少回線がつながりにくいといった部分もありましたが、わりと安価で簡単なシステムで、2つあるいはたくさん学校の結んで、共同授業をしたりするのに使えるね、ということは参加の先生方にも分かっていたようです。

今回参加した先生方の年代は、20・30代を中心に、それより上の方もちらほら、といったところです。地区事業には必ず校長先生もいらっしやるそうで、札幌美香保中の笹浦校長、札幌栄北小の越智校長も一緒に実習に参加していただきました。昨秋もお手伝いした印象からすると、年輩の先生も含めて、キーボードやパソコンに対しての苦手意識といったものは、もうほとんどなくなっている、と感じました。折しも札幌市立学校全校へのパソコン配置とインターネットの導入が決定し、講習の冒頭にも「もう逃げ場はありませんよ」と脅しを掛けたせいもあるのかもしれませんが、先生方の真剣度は以前にも増しているようです。「一太郎」でホームページを、というのはやはり「邪道」の域を出ないのかもしれませんが、これをきっかけとして既に学校にあるものでもできることを理解して、同僚の先生に教えたり、ホームページにもっと工夫を凝らしてみたり、という形に進んでくださるものと思います。今後も機会を捉えてはACE & NCFの啓発活動をしていきたいと思います。

#最後になりましたが、機材提供やフェニックスでご協力いただいたNTTの船山さん、五十嵐さん、それに札幌市の熊谷さん、どうもありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。

新会員紀行 前号の答え合わせ

さいと(site@ij.ad.jp)

食事のメニューを聞かれて「あいあむちきん」と答えると笑われるのはなぜか、が宿題でした。皆さん、考えて頂けましたか？「あいあむちきん」では、「私は鶏である」ということなので、人間が鶏であるわけがない、と考えた貴方はきっと学生時代優秀な成績だったか、もしかすると、英語の先生ですね?-)

残念ながら正解ではありません。コーヒーをチョイスするアメリカ人が「あいむかふい」と言ってるのを聞いたことがありますので、文法的には違うんでしょうが、会話としては間違っている

わけではないようですし、すくなくとも、文法が違うからと言って、笑われる原因にはならないと思います。

わかった!「ちきん」という発音が難しくて、それが、日本人はきちんと発音出来ないからじゃないか?と考えた貴方。それは考え過ぎです:-)。

thも「も含まれていない「ちきん」は、どう考えてもそんなに難しい発音じゃないですよ。

それでは正解です。「あいむちきん」には、北海道風の言葉で書くと、「おら腰抜だもな」みたいな意味があるんですね。これなら、周りの人に「くすっ」と笑われるのもうなずけるような気がしませんか?:-)。

てなわけで、外国語はおもしろいですね。こんな雑談を交えながら習う英語っておもしろそうだと思うんですけど。

編集後記

HFS+でフォーマットしてあった超メインマシンの2400のHDDがある日突然認識しなくなりました。ノートン先生もMacTOOLSも8.1のHFS+には未対応。2カ月以上もバックアップなし。Systemやアプリはともかく、お金では買えないデータ・書類の類いは惜しいですね。皆さんもこれ読んでへへっと笑う前にバックアップは必ずしときましょう。特にメール無くすと痛いよ。(吉田)

大成の研究会、地元の先生や高校生が参加してくれて、とっても良かったです。入澤先生ありがとう。瀬棚の民宿「おがわ」がまた、とっても食事がおいしかったです。民宿のおばちゃん、ありがとう。ビール買いに行かせてごめんね。でも由水先生はあんなにおいしかったうにが嫌いなそうなので、今度一緒に密猟に行つて、捕れたうには全部僕にください。・・・というわけで、先月蝦名さんが紹介してくれたパステムセゾンのお二人も大成にまで来てくれて、とっても嬉しい研究会だったのでした。(青柳)

大成町に行ってきました。いや～、本当に遠いですね。それでも、最新の素晴らしい設備を整え、熱心に情報教育に取り組んでいる先生・地域の方の熱意には本当に感激しました。光ファイバー網も入らず、ちょっぴり寂しい気持ちになっていただけに大いに励まされた感じがします。ここでもうひと踏ん張りしないと、180万都市札幌の未来はないぞ!って感じです。がんばろう!ところで、いよいよPOEMが近づいてきました。最北の地稚内で500人、さて阿蘇には何人との出会いが待っているのか今から楽しみです。(荒島)

マルチメディア探検隊は大成高校へと向かった。そこは、霧深い海岸の町。ケケケケケケ!海鳥たちは、切り立った岸壁の上から、足下のおぼつかない探検隊の一行を高笑いしながら見下ろしていた。隊員たちは、激しい日本海の波に向かい立ち、ここ4年の旅を思いながら、「もう一度足下から固めなおそう」と決意を新たにしたのでした。

来月、厚真の隠れ家、ログハウスに集合する。そこでは、MMECマルチメディア・モバイル・エデュケーション・キャンプが行われる。みな、家族に内緒で集合してもらいたい。この指令を読んだら直ちに、焼却するように。次ぎの指令は、メーリングリストで行う。以上だ。(武田)